

地域活性化への取組み

◎子どもを対象とした次世代教育

☆農業とふれあうための農作業体験の支援

子供たちにりんごの人工授粉やバケツ稲、さつまいもの苗植えなど体験させ、農作業の楽しさと、自然の大切さを学んでもらうためにJA職員が講師となり、農作業体験を行っています。

☆食の大切さと地元農産物のおいしさを伝える食農教育の支援

子供たちが農作業体験で育てた米や野菜、地元農産物を使った調理実習を行い、おいしさを伝え農作物や地産地消に関心を持ってもらうためにJAと女性部員が協力して行っています。

☆小・中学生を対象とした書道展の実施

田舎館基幹グリーンセンターでは、書道を通じて礼儀正しさ・集中力を養い、豊かな表現力を育ててもらうため、毎年同地区の小・中学生の児童を対象に書道展を実施しています。



小学生の人工授粉作業体験



小学生が育てたもち米で餅つき



小・中学生の書道展

変わるJA 広がる地域のきずな

変わるJA 広がる地域のきずな

監修＝広島大学
助教 小林元

Q、JAの自己改革は地域社会とどんな関わりがあるの？

A、地域の生産と消費を後押しして、 食料の生産基盤を支えます。

JAの自己改革では、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を目指しています。農業者の平均年齢は66.7歳（2017年）となり、国内の農業就業人口が年間10万人規模で減少する中、農業の担い手の確保が難しくなっています。また、食料自給率は主要先進国で最も低い38%（2017年度、カロリーベース）まで落ち込みました。JAは自己改革を通じて、生産コストの引き下げや有利販売の拡大、次世代の担い手の育成、地域の活性化などにより、地域の農畜産物の生産と消費を支えています。日本の食料の生産基盤を守る上でも、大切な取り組みです。

近年は、各地で豪雪や豪雨、自信などの災害が相次ぎ、農業現場も大きな被害を受けました。JAは、災害発生時においても、被害状況の調査や生産資材の確保、農地、農業施設の復旧など、被災地の一刻も早い再生に向けた支援を行っています。いかなる時でも地域の食糧生産を守り、発展させていくために、これからもJAグループで力を合わせて自己改革を進めていきます。

JAの自己改革

- 農業者の所得増大
- 農業生産の拡大
- 地域の活性化

最重点

地域の抱える農業課題へ対応

地域の農畜産物の生産と消費を支え
安定した食料生産を実現



災害など有事の際には…

- 被害状況の速やかな把握
- 生産資材の確保
- 農地・農業施設の復旧
などをサポート

耕そう、大地と地域の未来。